

CONTENTS

- ・第3回IPUミーティングの開催報告
- ・第4回IPUミーティングの開催報告
- ・IPU日常的FD活動の紹介(No.5)
- ・学外行事への参加報告(No.5)
- ・編集後記

「FD(Faculty Development)」とは、大学教員が授業内容や方法等を改善し、教育能力を向上させるための実践的な取組みです。

第3回IPUミーティングの開催報告

近年、「シミュレーション教育」が注目されてきています。本学においても客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination:OSCE)という教育方法を取り入れてきました。そこで今回、『IPUにおけるシミュレーション教育を考える』と題して、6月8日(金)16時45分～18時、本学112講義室で開催され、18名が参加しました。

医科学センターの武島玲子准教授による「スキルラボ・ワーキンググループの活動報告」では、本学でスキルラボ(仮称)を開設するまでの経緯について説明がありました。引き続いて、看護学科黒田暢子助教から「ハワイ大学におけるシミュレーション教育の実際」について、海外研修での経験をもとに具体的な教授法をまじえて紹介がありました。



第4回IPUミーティングの開催報告



学生をより深く理解するために、本学ではこれまでも学生理解に関するテーマをFD活動として取り上げてきました。

今回は、6月27日(水)13時～14時30分、本学112講義室において、人間科学センター佐藤純准教授による講演『現代の学生に対するコミュニケーションのあり方』が行われ、54名が参加しました。

近年の大学生像や大学を取り巻く社会背景、さらにはその中で多忙を極める教員の置かれている環境などにも着目しながら、現代の学生に対するコミュニケーションのあり方について具体的に学びを深める良い機会となりました。



IPU日常的FD活動の紹介(No.5)



理学療法学科におけるFD活動「学科内OSCE(客観的臨床能力試験)ワーキンググループの活動について」 (理学療法学科 滝澤恵美)

理学療法学科の4年次学生は、前期中の全てを実習協力病院での臨床実習に費やします。本実習で学生は、現場で働く理学療法士の指導・手助けの下、実際の治療場面に関わります。この臨床実習の前後に行われる能力試験がOSCE(客観的臨床能力試験)です。

実習前に実施するOSCEでは学生が自身の弱点を知り、より効果的に実習準備を進めることを目的としています。さらに実習後に実施するOSCEでは、本学科が目標とするレベルに学生が到達しているか評価することを目的としています。このOSCEを学科内で取りまとめているのがOSCEワーキンググループです。

OSCEワーキンググループは、大きく3つの活動を行っています。1つ目は「問題作成」です。2つ目は「試験の実施」、3つ目は「学生へのフィードバック」および「フォローアップ」です。構成員は学科長を含めた5名で、構成員は毎年再編成されます。この3つの活動を実施するために構成員は、「試験によって確かめる必要のある事項を何にするか?」を考え、話し合っています。

OSCEは、学生にとっては「これまでの集大成」が「評価」されるものです。つまり、OSCEを企画・運営する側は、「集大成として何を評価すべきなのか?」、「何を大切に教育してきたのか?」を振り返る必要があります。私も、今年はOSCEワーキンググループの一員となりました。実際の活動を進めていく中で、「何を大切に教育する(した)のか?」「何が理学療法の教育のbaseなのか?」「何が学生には伝わり難いのか?」等々、お茶を飲みながら話し合われることでしょう。

学外行事への参加報告(No.5)

『FDネットワーク“つばさ”第9回FD協議会』に出席して (教務課 速水恵子)

6月2日。梅雨入り直前の快晴の日、山形で開催された当協議会に本学FD企画運営部会員の川村拓助教と共に出席しました。初めての山形、初めてのFD協議会への出席と初めて尽くしの中、少し緊張していましたが、笑いの中に教育への思いに満ちた参加者の皆さんのパワーにより、緊張も忘れてしまいました。

協議会では分科会も行われ、私は「大学教育と就職支援」について意見交換をしました。支援といっても各大学の個性によりその内容や課題点は多岐に亘り、学生や専攻分野に合わせた支援内容を模索されているお話が印象に残っています。本学は開学以来、就職率100%を達成していますが、社会人として、専門職業人として、学生がより良い進路選択が可能になるよう、一層の研鑽の重要性を改めて感じました。

今回、密度の濃い時間を過ごす中で浮かんだ言葉は、「つながり」です。学生と大学、教員と職員、大学と大学、大学と社会 等々。それぞれのつながりが大きな力を生み、可能性が広がる予感を感じました。

大学教育に対する教員・職員の熱意が、暑い日を一層暑くした一日でした。



※「FDネットワーク“つばさ”」とは・・・

FDネットワーク“つばさ”は、連携する大学・短大・高専におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)の立ち上げ・確立・発展を協同で行います。

それにより授業改善、カリキュラム・教育制度改革などを実現させ、その成果を共有するとともに、各大学等における特色のある魅力的な教育を開発することを目標とします。

引用 「つばさとは?」(FDネットワーク“つばさ”)

(<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/tsubasa/index.html>) (2012年6月27日参照)

編集後記

「ケンケン」と雉、「ゲコゲコゲコ」と蛙、そして「ジージー」と蝉の音が聞こえてきました。気づけば、夏の到来です。本学の学生は、びっしり詰まったカリキュラムの中で、一生懸命に学習に専念しています。しかしながら、毎年、4年生になった学生に話を聞いてみると、勉強ばかりではなく、サークル活動などの課外活動を通じて豊かな体験も重ねているようで頼もしい限りです。本学の理念の大きな柱のひとつである「豊かな人間性の涵養」をもとに、卒業後もさらに成長し続けてほしいと願っています。(FD企画運営部会長 富田美加)